

グループが3年後に目指す姿の実現に向け 事業再構築を断行し、グループ運営体制を強化します。

Q1 当期の業績を総括してください。

2013年6月に厚生労働省が「医薬品産業ビジョン2013」「医療機器産業ビジョン2013」を公表するなど、医薬品・医療機器の開発推進という政府方針が改めて示されました。当期は、その追い風と、開発の期間短縮・コスト抑制へのニーズとが相まって、医薬品・医療機器開発のアウトソース市場は世界規模で拡大傾向にあります。

一方、医薬品等の承認基準の厳格化や医療制度の見直しなどを背景に、製薬会社・医療機器メーカーは、さらなる高品質・効率化を追求しています。そこで、アウトソーシング受託企業には、品質・価格・スピード面で一層高いレベルの対応が求められているといえます。

こうした事業環境に対し、当社グループは、グループの収益基盤であるCRO・SMO・CSOの国内3事業で品質管理体制の確立や業務の効率化を図りました。また海外では、Global Research事業でグローバルレベルの顧客ニーズへの対応、益新事業で中国現地市場における競争力確立に取り組みました。

これらの結果、当期における当社グループの連結業績

は、国内CRO事業の好調により売上高41,800百万円(前期比11.2%増)、営業利益4,491百万円(同28.4%増)、経常利益4,242百万円(同19.8%増)、当期純利益1,828百万円(同6.9%増)の増収増益となりました。厳しい競争環境のもと、一定の成果を上げることができたと考えています。

Q2 各セグメントはどのような概況ですか。

国内CRO事業

国内CRO事業では、売上高24,190百万円(前期比15.8%増)、営業利益3,803百万円(同34.2%増)となりました。モニタリング業務が売上の拡大を牽引し、データマネジメント業務で低採算プロジェクトの利益率向上策が改善しました。このほか、臨床研究、医師主導治験および医療機器の支援業務、株式会社イーピーメイトによる派遣型CRO業務、イートライアル株式会社による医薬・医療系IT関連業務も堅調に推移しました。また、期中に連結子会社化した株式会社EPSアソシエイトでは、順調に体制整備が進んでいます。

国内SMO事業

国内SMO事業は、売上高6,287百万円(同10.2%増)、営業利益900百万円(同124.8%増)となりました。大型案件が順調に進捗して売上が伸び、利益面ではCRCの採用効率化などのコスト削減策が成果を上げました。

国内CSO事業

国内CSO事業は、売上高5,974百万円(同5.4%増)、営業利益259百万円(同741.6%増)となりました。医薬向けコールセンター業務が売上増に寄与し、医薬向けCMR(契約MR:医薬情報担当者)業務とPMS(市販後調査)業務ではそれぞれ体制や事業の再構築を進めました。

Global Research事業

Global Research事業は、売上高2,192百万円(同23.9%増)、営業損失250百万円(前期は52百万円の損失)となりました。売上は拡大したものの、コスト削減策が実施途中であること、また為替レートの影響を受けたことで赤字幅が拡大しました。

益新事業

益新事業は、売上高3,507百万円(同12.8%増)、営業損失117百万円(前期は270百万円の利益)となりました。医療機器の販売は好調に推移しましたが、利益面では、コスト抑制策を行ったものの、開発権の一部導出が遅れたことから、赤字になりました。



代表取締役会長 **巖 浩**

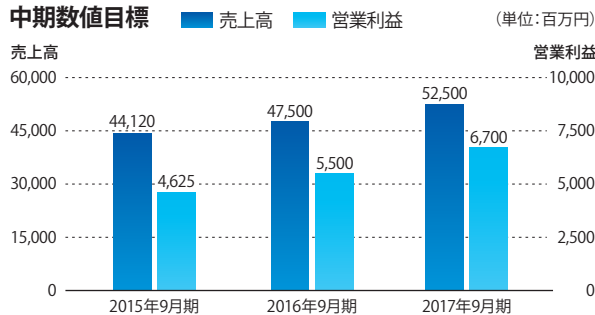
1962年生まれ。中国江蘇省出身。1979年天津大学に入学。1981年中国国費留学生として山梨大学、東京大学(大学院博士課程)で医学統計を専攻し、臨床試験にかかわる研究・実務に従事。東京大学大学院在学中の1991年、当社を創業。創立10周年に当たる2001年に株式をジャスダックに上場。2006年9月、東証一部へ上場。

Q3 中期経営戦略について聞かせてください。

今後の成長に向けて、当社グループは中期経営戦略を新たに策定しました。3年後の2017年9月期までに目指す姿として3つを設定し、事業運営を進めています。

2017年9月期に目指す姿

- ・日本国内では、持続的成長が可能な事業基盤の確立
- ・日本発のアジア・グローバルCROへ
- ・日本と中国、東南アジアを繋ぐヘルスケア専門商社へ



この中期経営戦略の一環として、2015年1月に持株会社体制へ移行します。持株会社であるEPSホールディングス株式会社の傘下に各セグメントの事業会社を配置し、セグメントごとの自立・自律的な経営体制を確立します。また、持株会社によるマネジメントの強化や、シェアードサービスを活用した管理事務機能の集約によって、グループシナジーを最大化していきます。

業績についても3ヵ年計画を定め、最終年度の2017年9月期に売上高52,500百万円、営業利益6,700百万円を目標とします。

中期経営戦略の初年度となる2015年9月期は、組織・戦略固めの時期として、持株会社化と新たな事業再編に注力します。連結業績は、売上高44,120百万円(前期比5.6%増)、営業利益4,625百万円(同3.0%増)、経常利益4,327百万円(同2.0%増)、当期純利益1,937百万円(同6.0%増)を計画しています。

配当について

2014年9月期期末の配当金は、1株当たり10円とさせていただきます。次期の配当金は、当期と同様に1株当たり18円を予定しております。

株主の皆様には引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(注) 2014年9月期の中間配当は1株当たり800円としていましたが、2014年4月1日付で、普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行ったことに伴い、中間配当を8円として計算しています。

